

堀内 孝子 選

特
選

広島で世界のトップ顔合わせ叶えて欲しい核のない世界

福山市立城北中学校二年 新田 暁

【評】被爆地、広島で開かれたGセブンの様子をうまく捉えている。核のない世界を叶えて欲しいとの思いが伝わってくる。

コロナ明けマスク外した新学期喜怒哀楽が見えるうれしさ

県立広島国泰寺高等学校二年 濱野 智輝

【評】コロナ禍でマスクが外せなかった学校生活。外す事ができ、みんなの表情が見えて喜びが感じられる。

かえるさん田んぼの中が学校だおたまじゃくしもたくさんいるよ

庄原市立高野小学校二年 井上 悠

【評】田んぼにかえるとおたまじゃくしをみつけ、まるで田んぼの中が学校みたいと感じた素直な気持ちが表現されている。

隣国が急に攻め込む二月末無差別攻撃散った人命

廿日市市立野坂中学校二年 浅尾 龍汰

【評】ロシアがウクライナに侵攻して二年余り、兵士、一般の多くの人が犠牲となった。悲しみが伝わる歌。

お父さん大病患い入院し涙の再会クリスマススイブ

県立尾道北高等学校一年 藤原煌乃美

【評】お父さんの長い入院。コロナ禍で面会もできない状況が続いたが、クリスマススイブにやっと再会できた喜びが伝わる。

一まいに心をこめたおりづるが羽をはばたき飛んでいきそう

三次市八次小学校四年

新川 音羽

夏が来た白く輝くセーラー服思い出すのは戦時乙女の黒いセーラー

比治山女子中学校二年

織田 萌愛

ふるさとにゆれし黄金はいずこへとかつてに思ふは亡き父の畑

県立吉田高等学校三年

高下 竜生

G7山の頂上広島に世界の平和天までとどけ

比治山女子中学校二年

隅田 沙希

帰り道ひとり神社で手を合わす父さんの癌治りますよに

広島市立船越中学校二年

上田 葵

モリアオは天ねんきねんぶつそれはね人がすむばしよこわしているから

三次市八次小学校二年

末国 晃晴

帰宅したみな寝しずまり猫だけが我をむかえる八月の夜

大竹市立玖波中学校二年

山中 理生

怖かった大きな音で目が覚めた今も思い出す土砂災害の夜

三原市立大和中学校二年

森貞 葵巴

体育館猛暑断ち切るホイッスル優勝かけた最終決戦

呉市立川尻中学校二年

坂木 康信

暑い中風鈴歌うチリチリン何故か涼しい魔法の楽器

福山市立誠之中学校二年

清水 琴音

冬隣りこの葉辿りて帰る燕一人見守る空つぼの巢

銀河学院中学校二年 小川 琴音

広島は今日も真つ赤に染まつてるカープが勝つと大もり上がり

福山市立城北中学校二年 佐竹甚乃佑

かんわされはん年ぶりに大きかへぼくもうれしいそふぼのえがお

庄原市立東小学校二年 足利 昭斗

ふわふわと風にとばされしゃぼん玉きらきら光るお星さまみたい

庄原市立東小学校二年 山王 楓真

夏が来てミンミンと鳴くセミの声一週間の命の中で

尾道市立瀬戸田中学校二年 浪切 航

夏休み図書室への子らを待つ素敵な本と朝顔の花

県立広島国泰寺高等学校二年 沖田健二朗

放課後の面接練習ぬかりなし受験前夜に不安と闘う

県立西条特別支援学校高等部三年 高崎 武

盆の墓色鮮やかな灯笼がゆらゆらゆれる広島町の

呉市立呉高等学校三年 神野 七海

文化祭最後の演奏アンコール大きな拍手まだ鳴りやまず

県立広島皆実高等学校三年 叶 美羽衣

野球したいいしゅびしたぞほめられたみんなが喜ぶうれしかつたな

三次市立八次小学校三年 谷口 壮亮

堀内 孝子 選

特
選

短か日の夕餉を急かす夫は亡く鋤打ちおろす暮色の畑に

三次市 林 勝子

【評】夕迫るなか、一人で畑を耕している作者。「夫はなく鋤打ちおろす」に寂しさと前向きに生きる姿が感じられる。

コロナ禍をさすがに鴉「鳴いてゐます飛んでゐます」と見せてあつぱれ

広島市 三浦 恭子

【評】コロナ禍の中、自粛の人間とは関係なく、鴉の目線で詠まれた発想が面白い。「見せてあつぱれ」が効いている。

広島のゲンは裸足でかけめぐる翻訳されて世界の国を

広島市 山口 順子

【評】平和教材で使用された「はだしのゲン」これからは世界中の人が読んで平和になってほしいとの願いが込められている。

生かされて寄り添う時間ふえていく腎臓ひとつ無くしたけれど

広島市 岡田 郁枝

【評】病を乗り越えて互いに寄り添い、生きる姿が伝わってくる。「腎臓ひとつ無くしたけれど」に、心打たれる。

雪ふりて杉の木立の暮れ早し枝を打ちては妻と呼びあう

庄原市 永宗 敏昭

【評】厳しい杉の枝打ち作業。雪が降る中、お互いの状況を確認するよう
に「妻と呼びあう」に二人の気遣いが伝わってくる。

実家消え跡地に立てばそこかしこ父母はらからの声湧いて来る

広島市 松本壽賀子

まだ死なん九十余歳の心意気二合の米を仕掛けて眠る

福山市 肥後 弘子

無言館の妊る裸婦を描きしは征く画学生の遺す恋文

尾道市 久保 ヒデ

疎開先き母影追いし夕間ぐれ八十路過ぎしも鳩鳴けば恋う

広島市 恵 風

ドンツドン不意の花火に踊る胎児こを抱き愛いとしさ溢れくる夏

安芸郡坂町 石口 阿希

引き揚げの最後の難関釜山港を離れる宵の一番星

広島市 中垣 悦子

閉店の店主の挨拶貼り終へて客を迎へぬ扉を閉じる

呉市 松原 恵子

亡き夫の肩の丸みがそのままの背広吊せり晩夏の日ざしに

福山市 林 スミ子

数知れぬ犠牲のありて値上がりの卵ひとつを味はひて食ぶ

福山市 高橋千恵子

蜜月の人生キック五十年まだまだ続く人生ゴール

広島市 村上 中

慰霊碑へ献花の首脳見学はほんの一部のヒロシマの過去

広島市 土居 直子

若者が集うこの街近頃は介護グッズの店多くなり

広島市 魚山 玉江

精霊船父の名ゆれる響灘こよい最後の引潮にのる

福山市 富田 清人

被爆者の調査といわれ友の母ジープに乗せられ連れてゆかれし

安芸高田市 井上 愛

ただ独り残しゆく娘の頭撫で被爆の伯父の声無く逝けり

三次市 堂本 明美

夕ぐれは十円玉のほひする握つて走つた駄菓子屋までを

広島市 森 ひなこ

コウノトリ希羅里・羅羅・喜羅名親いて世羅の町にはこども増えたり

広島市 兼池 隆子

つぎつぎとハードルを跳ぶ勢ひでわが子は今日の出来事を言ふ

広島市 熊谷 純

炎天下ノート片手に立ちすくむ語り部たちの被爆体験

広島市 三谷 俊明

つつしみて読む「夏の花」ヒロシマの八月六日空はれわたる

呉市 古谷 明子